

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第27条第1項に基づく

教育委員会の点検・評価

(平成24年度対象)

平成25年7月

富津市教育委員会

目 次

I. はじめに

- 1. 点検・評価制度の概要について 1
- 2. 教育委員の活動状況 2

II. 点検・評価

- 1. 学校教育の充実 4
 - (1) 庶務課の取り組み 5
 - (2) 学校教育課の取り組み 7
 - (3) 教育センターの取り組み 9
 - 外部評価者による評価 11
- 2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、
文化財の保護と活用 12
 - (4) 生涯学習課の取り組み 13
 - (5) 中央公民館の取り組み 15
 - (6) 富津公民館（埋立記念館を含む）の取り組み 17
 - (7) 市民会館（峰上公民館を含む）の取り組み 19
 - 外部評価者による評価 21
- 3. スポーツ・レクリエーションの振興 22
 - (8) 体育振興課の取り組み 23
 - 外部評価者による評価 25

I. はじめに

1. 点検・評価制度の概要について

(1) 趣旨

教育委員会制度は、合議制の教育委員会が決定する教育行政に関する基本的方針のもと、教育長及び事務局が広範かつ専門的な具体の教育行政事務を執行するものです。

このため、事前に立てた基本方針に沿って具体的な活動が展開されているか、教育委員会自らが事後にチェックするとともに、市民への説明責任を果たし、市民に信頼される教育行政を推進することが求められています。

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第27条（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）に基づき、平成24年度の富津市教育委員会に属する主だった事務の管理執行状況について報告するものです。市民の皆様が教育委員会が行っている日常の業務を知っていただき、一層の御支援を賜りたいと考えています。

本報告書については、これまで次のようなご指摘をいただくことができました。

- ・前年同様の表現が多く、報告書作成が目的化していないか。
- ・ページ数が多く、また文章表記が中心で読みにくくわかりにくい。
- ・他自治体の例等も参考にしたらどうか。等

そこで今年度は、市民にとってよりわかりやすい報告書にするため、他自治体の例も参考にし、主に以下の点について改善し、従来の半分弱のページ数にまとめました。

- ・市全体の施策との関係を明確にするために、報告書の構成を平成23年3月策定の「富津市第3次基本計画」に近づける。
- ・「富津市第3次基本計画」と、同じく平成23年3月策定の「富津市生涯学習推進計画」で示した施策目標に対する到達点を明らかにする。
- ・担当課による評価シート方式を取り入れ、毎年行っている事業等は思い切って省いて年度の特徴的な取り組みを簡潔に記載するなど、わかりやすさを重視する。

(2) 学識経験者の知見の活用

点検・評価について客観性を確保するために教育に関し学識経験を有する方2名の意見を伺いました。学識経験者の評価と意見は、各課等の最後に記載しています。

(3) 評価については、3段階（A・B・C）で表わしています。

- A：施策目的の達成に向けて順調に進んでいる
- B：施策目的の達成に向けて概ね順調に進んでいる（一部に課題がある）
- C：施策目的の達成に向けて困難な課題がある

2. 教育委員の活動状況

富津市教育委員

平成25年3月31日現在

職 名	氏 名
委 員 長	池 田 亨
委員長職務代理者	小 坂 洋 子
委 員	宮 田 賢
委 員	榎 本 純 子
教 育 長	渡 辺 隆 二

(1) 定例会議等

- 4月 2日 ・富津市教育委員会委員長職務代理者の指定について 等
- 4月26日 ・富津市文化財審議会委員の委嘱について
・義務教育諸学校（市立小学校及び中学校）の教科用図書の取扱い方針を定めることについて 等
- 5月31日 ・平成24年度教科用図書君津採択地区協議会委員の選出について
・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱について
・富津市社会教育委員の委嘱について
・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について 等
- 6月21日 ・富津市学校給食運営委員会委員の委嘱及び任命について
・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について 等
- 7月 2日 ・富津市教育委員会委員長の選挙について
・富津市教育委員会委員長職務代理者の指定について
・富津市教育委員会教育長の任命について 等
- 7月26日 ・教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価について 等
- 8月23日 ・平成24年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出9月補正予算について 等
- 9月27日 ・報告事項 等
- 10月25日 ・報告事項 等
- 11月29日 ・平成24年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出12月補正予算について 等
- 12月21日 ・富津市立小学校及び中学校管理規則の一部を改正する規則の制定について
・富津市私立幼稚園就園奨励費補助金交付規則の一部を改正する規則の制定について

- ・平成24年度富津市教育委員会被表彰者の決定について 等
- 1月31日 ・平成25年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出予算について 等
- 2月14日 ・平成24年度富津市一般会計予算教育費歳入歳出3月補正予算について
- ・平成24年度末退職教職員に対する富津市教育委員会感謝状の贈呈について 等
- 3月28日 ・平成24年度富津市退職教職員感謝状贈呈式
- 3月28日 ・富津市社会教育委員の委嘱について
- ・富津市教育委員会行政組織規則の一部を改正する規則の制定について
- ・富津市学校給食費徴収規則の一部を改正する規則の制定について
- ・富津市文化財第7次指定について
- ・富津市公民館運営審議会委員の委嘱について 等

(2) 教育委員協議会 ……事務局とのフリートーキング等

- 5月31日 平成23年度学校施設耐震補強工事の事後評価について
- 8月23日 富津市小・中学生の問題行動及び生徒指導について
- 9月27日 通学路の交通安全について
- 10月25日 市内文化財について（視察）

(3) 教育委員の研修等

- 5月21日 平成24年度君津地方教育委員会連絡協議会総会
- 5月28日 平成24年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会定期総会並びに特別講演会
- 9月 5日 平成24年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会第1回教育委員研修会

① 全体会（パネルディスカッション）

テーマ 「教員の資質向上のための研修制度の在り方」について

② 分科会 ・「教育委員会の点検・評価について」

・「安全対策について」

・「道徳性を高める教育について」

- 1月28日 平成24年度千葉県市町村教育委員会連絡協議会第2回教育委員研修会

講演 「最近の教育課題と教育委員会の役割」

(4) 学校訪問

- 11月15日 環小学校
- 経営概要説明・授業参観 等

Ⅱ. 点検・評価

1. 学校教育の充実

『富津市第3次基本計画』の施策目標と到達点

指 標 名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成24年度 (到達点)
きめ細かな指導のために配置された指導員数	特別支援教育指導員 3人 外国人指導助手 (ALT) 3人 自立支援指導員 4人	8人 4人 9人	4人 3人 4人 英語指導員 3人 指導補助教員 4人
小中学校校舎等の耐震化率	60.7%	100%	93.4%

(1) 庶務課の取り組み	教育委員会の自己評価	A
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 学校施設耐震化事業 (634, 746, 303 円) 工事請負費 (591, 570, 303 円) 委託料 (43, 176, 000 円) ・ 学校施設整備事業 (137, 698, 197 円) 工事請負費 (125, 254, 197 円) 委託料 (4, 263, 000 円) 用地取得費 (8, 181, 000 円) ・ 学校教育振興費 (26, 373, 962 円) 理科教育振興備品 (912, 660 円) 教材備品 (4, 724, 275 円) 図書備品 (2, 996, 901 円) など 		
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <p>学校施設の耐震化は、23年度学校施設環境改善交付金 (国の補正予算分等) を活用して、青堀小、飯野小、大貫小の各屋内運動場、佐貫小特別教室棟及び屋内運動場、湊小特別教室棟、天羽東中屋内運動場の6校7棟の耐震補強工事と、大貫小普通教室棟、湊小屋内運動場、佐貫中、天羽中の技術室棟の耐震補強設計が予定通り実施できた。その結果、24年度末における学校施設の耐震化率は23年度から11.4ポイント上昇し、93.4%となった。25年度末の100%を目標とする。</p> <p>学校施設の整備等は、飯野小、佐貫小、湊小の電気設備 (キュービクル) 改修工事、天神山小、金谷小のアスベスト除去工事、天神山小高架水槽改修工事、大貫中、富津中の屋内運動場バスケットコートラインの変更業務を実施した。また、6月の台風4号により倒壊した大貫中自転車置場は、9月補正で予算を要求し、25年2月末に設置工事を完了することができた。</p> <p>学校備品関係では、小・中学校を隔年で実施している理科教育備品は、理科教育振興費補助金を活用し、24年度は小学校を整備した。また、教材・図書備品は、経常経費の削減を目指しつつ、学校からの要望をできる限り尊重して対応した。</p>		
<p>③ 今後の取り組みの方向性 (改善策等)</p> <p>学校施設の耐震化については『第3次基本計画』に基づいて策定した『前期実施計画』どおり、25年度中の100%達成を近隣市に先がけて実現する見通しがついた。</p> <p>学校施設の現状は、経年25年以上の建物が約6割を占めている。今後更に増加する老朽化施設の状況を的確に把握するとともに、適切な計画の策定、改修を進めていきたい。</p>		

○平成24年度耐震補強工事より

湊小学校保健室の壁面ブレース補強



佐貫小学校屋内運動場壁面ブレース補強



◎教育部の取り組み（教育かわら版の発行）

教育委員会が日頃行っている業務等について、市民に理解して頂くために教育かわら版を20年度から発行している。24年度も6月、8月、10月、12月、2月に計5号（通刊20号）区長回覧を通じて全戸配布した。市民の認知度も年々高まっているようである。

かわら版発行のための特別の予算措置や人員配置ができないため、業務増につながっているのも事実だが、今後も引き続き内容の充実に努め、発行を続けていけるよう努力したい。

（※教育部全体で実施している業務です。）

(2) 学校教育課の取り組み	教育委員会の自己評価
B	
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 (31,688,600 円) ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 (12,708,180 円) ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 (1,400,095 円) ・学校給食事業 (195,576,659 円) ・学校給食管理運営事業 (124,355,636 円) ・特別支援教育指導員 (6,152,891 円) など 	
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園就園奨励事業 市内に住所を有する補助金該当保護者の子(351人)が通う、市内外の私立幼稚園9園の設置者に補助金を交付し、幼児教育の振興を図った。 ・要保護及び準要保護児童・生徒就学援助事業 準要保護児童・生徒として174人を認定し、学用品費・給食費・医療費等の援助を行った。なお、24年度から児童への通学費補助を加えた。また、要保護児童・生徒については、医療費1人・修学旅行費1人の援助を行い、併せて保護者の経済的負担の軽減を図った。 ・特別支援教育児童・生徒就学援助事業 特別支援学級在籍の児童・生徒33人を認定し学用品費・給食費等の援助を行った。 ・学校給食事業 2共同調理場及び3単独校調理場で年間189日以上実施し、延べ659,884食を配食して児童・生徒の心身の健全な発達と学校における食育の推進を図った。また、給食で提供する主な食材の放射性物質検査を行い、検査した延べ66品目全てで放射線は「不検出」だった。 ・学校給食管理運営事業 調理業務、配送業務等の業務委託の実施及び施設設備の老朽化更新を図り、第3次基本計画で検討することとなっている給食施設の統廃合についても、学校給食運営委員会で検討を行った。 ・特別支援教育指導員 通常学級で過ごす特別支援を必要とする児童・生徒の支援のため、4人の指導員を非常勤で雇用し延べ6校に派遣した。配置の効果は非常に大きく、学校からも増員に向けた切実な要望が寄せられている。 	

・その他

今年度、国の施策として行われた「通学路の緊急安全点検」は、道路管理者、警察、学校、教育委員会が連携して市内全12小学校区で実施し、44箇所危険箇所すべてに対応策を設定した。

また、児童・生徒の健全な育成と各種事故防止を図るため、学校と警察並びに教育委員会が学校警察連絡委員会を組織している。24年度も連携を密にし、互いに協力して指導の万全を期した。

『富津市小・中学校防災計画（震災）暫定版』を作成し、小・中学校の震災対応にかかる情報の提供、防災計画の見直しに努めた。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

・私立幼稚園就園奨励、要保護及び準要保護児童・生徒就学援助、特別支援教育児童・生徒就学援助事業

三事業とも市の財政負担が高まる傾向にあるが、幼児教育・学校教育の振興のため、予算の確保に努める。

・学校給食事業

安全・安心で安定した給食の実施に向け、調理従事者研修の充実、食材の安全確保、食育の推進、未納給食費の解消に努める。

・学校給食管理運営事業

調理場の統合等について、具体的な方針の決定を目指す。また、施設設備の老朽化や耐用年数の経過した機材が多いことから、維持管理費の増加がみられるので、計画的な更新に努める。

・特別支援教育指導員

25年度には1人が増員され、5人を6校に派遣する予定である。今後も『第3次基本計画』に基づいてさらなる充実に努める。

・小・中学校再配置構想の推進

保護者・地区市民と共に検討を重ね4年を終えた。富津市小・中学校再配置構想の趣旨の周知・理解も進み、今後はできるだけ速やかにまとまるよう努める。

・通学路の安全点検

今後も定期的に通学路を点検するとともに、関係機関との連携を図り事故防止に努める。

(3) 教育センターの取り組み	教育委員会の自己評価	A
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員研修推進事業 (225,094 円) ・学力向上推進事業 (7,939,971 円) ・外国語指導助手配置事業 (11,560,500 円) など 		
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <p>教職員研修推進については、夏季教職員研修会を10講座、PC研修会を4講座開催し、302人(全教職員の96%)の参加者であった。また、市教職員全体研修会を実施し、千葉大学教育学部伊坂淳一教授より「学力向上と授業改善」をテーマとする講演をいただいた。</p> <p>階層別研修として、研究主任研修会、生徒指導担当者研修会、新規採用教職員研修会、2年目教員研修会、特別支援教育コーディネーター研修会、管理運営研修会(教頭・教務主任対象)等を実施した。</p> <p>研修においては、教育現場が抱える課題に対し、専門的な立場からの意見や解決への実践例の紹介・解決法の研修などが主であり、教員のスキルアップにつながった。</p> <p>また、学校からの要請に応じ、指導案作成の助言や校内授業研修会講師として指導主事・教科指導員等が、のべ51回学校訪問を行った。</p> <p>学力向上推進事業については、少人数指導を推進するため指導補助教員4人を中学校4校に配置し、授業中の個別指導や適応指導教室での学習支援を行った。また、学力向上推進委員会を組織し、基礎基本の定着に向けた学習の充実・体力の向上・外国語活動と英語科の効果的な接続を中心に具体的に推進すべきことの検討を行った。24年度は下記の事項に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 小学校算数基礎学習ドリルの配信・配布 ② 体力向上プログラムの作成 ③ ふっつ家庭学習の手引き(小学生版)の作成 ④ 小学校・中学校英語活動対応表の作成 <p>富津市が目指している基礎学力(読み・書き・計算)の土台の上に、学ぶ力・学ぼうとする力・学んだ力の三つの力を相互に関連させながら確かな学力を身につけさせていくことを推進した。</p> <p>外国語指導助手配置事業については、業務委託により3人のALTを雇用し、全小・中学校において隔週で指導を受けられるよう配置した。さらに小学校の外国語活動には3人の英語指導員を雇用し、ALTとともに学級担任の指導を補佐した。</p>		

生徒指導・教育相談体制として、自立支援指導員4人を小・中7校に、適応指導相談員2人を「さわやか教室（中央公民館内）」に配置した。さわやか教室在籍の5人中3人が中3生であったが、高校進学という進路を得て卒業することができた。県から派遣されたスクールカウンセラーを、中学校5校に配置し、のべ1,100件を越える相談活動を行った。教育センターへの電話相談は8件であった。

情報発信としての学校ホームページの作成・更新については、県緊急雇用創出事業を活用し、年度後半から業務委託により市内各校を巡回し作業にあたった。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

教職員研修推進については、今後とも教育現場のニーズや今日的な課題に応じた研修の実施に努める。

学力向上推進事業については、24年度に作成した「ふっつ家庭学習の手引き（小学生版）」を配布するとともに、その効果を検証しながら中学生版の作成を検討する。また、体力向上プログラムを全小学校の体育の授業で実践する。さらに本市児童・生徒の学習面での課題を分析し、効果的な学力向上に資するべき方策を検討する。24年度の小学校算数基礎学習ドリルに続き小学校国語基礎ドリルを作成する。事業を推進する上で、家庭（地域）・学校・教育委員会が連携して、児童・生徒の学力向上が図れるよう配慮したい。

学習面ばかりでなく、子どもたちが安心して学校生活を送ることができるよう、生徒指導や教育相談といった側面からも支援をしていきたい。



外部評価者（Ⅰ）の評価

A

意見

- ・全体的には、評価できる活動になっています。
- ・耐震補強の終点が見え一応の評価はできるが、老朽化している校舎の改築が富津中学校を最後に進展が見られない。学校の統廃合の難しさはわかるが統廃合を含めた将来像をしっかりと描き進めてほしい。
- ・教育かわら版はA4版になりましたが、保護者、地域に情報発信するためにはどう伝えていくのが重要です。情報はいくらでもあります。
- ・細かい部分での教育に対する配慮がされている点は大きい評価できるのでもっと大きな視野に立った展望をお願いしたい。

外部評価者（Ⅱ）の評価

B

意見

- ・学校の耐震化率が年々上昇し、93.4%となったことは喜ばしい。25年度末100%達成は実現するものと思う。今後も学校との連携を密にして、迅速な対応、実践力のある庶務課を期待している。
- ・「ふつつ教育かわら版」は、読みやすい紙面であると感じている。教育内容をしっかり把握することで学校施設、整備の重要性が再認識できる。発行することに意義があると思うので、業務増と考えずに今後も内容充実に努めてほしい。
- ・様々な要因から、子どもの育つ環境には大きな差がある。そのため、年々、奨励援助費は増加の傾向にあると思うが、子どもの幸せを願い確実に予算確保に努めてほしい。
- ・給食施設の統廃合は、大きな課題である。給食運営委員会組織等で慎重に審議し、計画的によりよい方向性を導き出してほしい。
- ・教職員研修を始め学力向上推進事業が充実してきている。特に、指導補助教員4人を中学校に配置したことは評価できる。また、4つの事項に取り組み確かな学力を身につけさせていくことを推進したことも大きな成果と言える。今後は、その効果を検証しながら、じっくりと次のステップを目指してほしい。

2. 生涯学習の充実、青少年健全育成の推進、文化・芸術活動の推進、文化財の保護と活用

『富津市第3次基本計画』・『富津市生涯学習推進計画』の施策目標と到達点

指 標 名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成24年度 (到達点)
市民等アンケート「学習やスポーツなどの活動をしている市民の割合」	42.5%	50.0%	—
富津市生涯学習推進大会参加者数	525人	2,800人 (平成23~27年度累計)	1,391人 (平成23・24年度累計)
市民等アンケート「生涯学習活動の推進」の満足度	30.6%	35.0%	—
人材バンク「まちの先生」の利用件数	4件	20件	65件
図書利用冊数	34,395冊	46,000冊	28,257冊
市民等アンケート「青少年の健全育成」の満足度	24.7%	30.0%	—
家庭教育学級参加者の数	782人	890人	1,248人
市民等アンケート「芸術・文化の振興」の満足度	28.1%	30.0%	—
指定・登録文化財の件数	79件	84件	84件
史跡見学会・講演会参加者数	597人	600人	907人
市民文化祭参観者数	14,692人	21,000人	15,018人
公民館・市民会館利用者数	130,540人	146,000人	142,614人
埋立記念館入館者数	3,806人	5,000人	3,047人

(4) 生涯学習課の取り組み	教育委員会の自己評価
B	
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業 (697, 169 円) ・図書館費 (4, 183, 563 円) ・移動図書館事業 (1, 342, 400 円) ・子ども会活動事業 (374, 159 円) ・青少年相談員活動事業 (972, 125 円) ・青少年問題協議会事業 (67, 110 円) ・富津市子どもセンター設置事業 (243, 000 円) ・家庭教育支援事業 (159, 396 円) ・市内遺跡発掘調査事業 (3, 014, 121 円) ・史跡等公有化整備事業 (8, 401, 000 円) ・史跡案内板・説明板設置事業 (72, 975 円) など 	
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果 (成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習推進事業 <p>2月3日に第13回富津市生涯学習推進大会を開催した。857人の参加者があり好評だった。講師は南雲吉則氏、演題「若返りと長寿の秘訣」であった。</p> ・図書館費・移動図書館事業 <p>市内16ステーションを月2回の割合で移動図書館の巡回サービスを実施したが、昨年度と比較して利用冊数が減少した。</p> ・子ども会活動事業 <p>子ども会活動及び組織の充実を図るため、各種事業をはじめ、ジュニアリーダー研修会・育成者講習会を実施した。</p> ・青少年相談員活動事業 <p>青少年のつどい大会、文化祭の協力 (なんでもヤリーナ20分・模擬店)、新年子ども大会、キャンプ大会研修会を実施した。</p> ・青少年問題協議会事業 <p>行政・学校及び各種市民団体代表により警察や学校で把握している事例を中心に協議を行い青少年の健全育成に努めた。</p> ・富津市子どもセンター設置事業 <p>子どもの地域における様々な体験活動を充実させ、家庭教育を支援するため、体験活動の機会や家庭教育の支援に関する情報を収集し、子ども・体験・ボランティア情報誌を発行し5,800部を市内小・中学校・幼稚園・保育所(園)に配布した。</p> 	

・家庭教育支援事業

富津小・大貫小・吉野小・天神山小・佐貫中・天羽中で家庭教育学級を開催した。参加者は1, 248人であった。

・市内遺跡発掘調査事業

飯野陣屋本丸跡の2つの地点の発掘調査を実施するとともに、23年度に調査した神明原遺跡3地点・富士見台遺跡の調査報告書を刊行した。また、内裏塚古墳群の過去の調査成果を集大成した「内裏塚古墳群総括報告書」を刊行した。

・史跡等公有化整備事業

国史跡・内裏塚古墳の前方部西側周溝部733㎡の買い上げを行った。

・その他文化財関係事業

民間開発発掘調査事業では、北笹塚遺跡（6地点）の発掘調査を行った。

高宕山サル被害防止事業では、老朽化した電気柵の全面的な改修、発信器の装着、T-1群・T-2群・石見堂群の行動域の調査を行った。

内裏塚古墳群など市内の史跡見学会や出前講座・講演会などへの参加者は907人であった。また古墳の里ふれあい館の情報を市のホームページに公開した。

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

生涯学習推進事業については、市民憲章推進協議会と連携し、今後も事業を継続し推進していく。

家庭教育支援事業は、現在6校の実施だが、より多くの学校が参加できるよう働きかけたい。

移動図書館事業は、現在16ステーションを巡回している。利用者が前年度に比較して減少しており、ステーションの見直しと施設への貸出文庫を検討する。また図書貸出システムを導入し、利用者の利便性とサービスの向上に努める。

青少年問題協議会については、現在年1回の開催であるが、関係団体のより綿密な連携を図るように努める。

富津市子どもセンター事業については、情報提供誌やホームページはもとより、多様な情報媒体で子どもや保護者へさらに情報発信するように努める。

市内の史跡についての案内板や説明板の整備を進め、老朽化に伴う更新のほか、指定史跡以外でも重要性の高いものについては、民間からの協力も得て説明板設置に努める。

史跡等公有地化整備事業として、内裏塚古墳の公有地化を進めるとともに、古墳群として今後の整備の方針を検討し計画を策定する。

その他文化財関係事業として、市の歴史や文化財に関して市のホームページの充実を図るなど広報活動に努める。また、高宕山サル被害防止事業では発信機の装着個体を増やし、指定地周辺の群数や頭数を明らかにし管理計画を策定する。

(5) 中央公民館の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中央公民館管理運営事業（14,318,153円） ・市民文化祭事業（1,360,175円） ・中央公民館学級・講座関係活動事業（1,115,896円） ・施設整備事業（14,857,500円） など 		
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民文化祭事業 <p>市民自ら積極的に運営に参加できるよう富津市民文化祭実行委員会の企画・運営により手作りの文化祭となるよう努めた。</p> <p>総合社会体育館・富津公民館・中央公民館・市民会館の4会場で4日間実施し、2,167人の出展者で3,047点の作品、出演者1,767人、参観者のべ人数は、15,018人であった。なお、毎年事業の実施に多くの関係者の協力を得ているが、施設備品に限度があり、内容的にも毎年同じようなものになりがちで、参加者が限られる傾向もある。</p> ・学級・講座事業 <p>対象別（青少年・婦人・成人・高齢者等）や課題別（歴史文化・工芸・健康等）の18の学級・講座を開設した。今年度は、新たに「男の悠遊教室」を行い、学級・講座全体の参加のべ人数は2,601人であった。</p> ・施設整備事業 <p>玄関ホール天井及びホール内の調光室で吹き付け材に含まれているアスベスト除去工事を実施した。また、法の改正により地下重油貯蔵タンクについて、新たに屋内式重油タンクの設置工事を実施し、公民館利用者の安全性・利便性の向上を図った。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）</p> <p>中央公民館は、昭和47年度に建設された施設であり、設備は老朽化に伴い、改善の必要な箇所が毎年増加してきている。財政状況を踏まえつつ計画的な改修等に努めたい。また、多様化している市民のニーズに対応した学級・講座の開設は、職員の人数等を考慮した場合、困難な面もあるが、学校や地域の各種団体等と連携し、事業内容を検討し、誰もが参加しやすい環境づくりを図る。また、館外学習を実施するときは、生涯学習バスの運行日程等の調整、あるいは民間バスの利用を考慮するなどして計画する。</p>		

学級・講座開催状況

平成25年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	ピッコロ学級	9	262	幼児の心身の発達、健康についての講義や移動学習、集団での遊びの実習。
2	シルバー生きがい学級	7	164	高齢者がいきいきと生活できるように、健康についての講義、軽スポーツ・レクリエーションや実習、社会見学等を交えながら学習していく。
3	さわやか女性セミナー	9	275	暮らしに役立つ課題や社会情勢などについて、見学、講義、実践を行いながら学習する。
4	折り紙教室	9	117	伝承折り紙から創作折り紙まで、アートとしても楽しめる折り紙の作品づくりを学ぶ。
5	クッキング教室	9	170	化学調味料をなるべく使わない体にやさしい料理を学ぶ。
6	はつらつウォーキング教室	10	245	ウォーキングのコツ、注意点及び効果などを学び、正しく美しく快適に歩くことにより、心身の健康増進をはかる。
7	読み聞かせボランティア入門講座	5	26	読み聞かせボランティアの未経験者を対象に本の読み聞かせの技術について実践を交えながら学習していく。
8	携帯電話の使い方教室	4	48	中高年を対象に携帯電話を気軽に利用できるようにし、生活の利便性を拡大する。
9	パソコン教室 (IT講習)	3	44	文書や表の作成、インターネットの接続と利用、年賀状作り等テーマごとに初心者向けの基本操作を学習する。
10	外国人のための日本語講座	24	295	在日外国人が日本で生活するうえで言葉の壁を少しでも減らし、地域の人とのコミュニケーションがとれるようにする。
11	こどもチャレンジ教室	4	123	創作や体験を通じて自発性、活動性、創造性を育てる。
12	中国語入門講座	18	176	日本の隣国である、中国の言語と日常会話を学び中国の伝統文化等をあわせて学習する。
13	はじめてのクラシックギター教室	12	104	クラシックギターの持ち方から演奏まで、初心者のために1から学習する。
14	いきいき健康体操教室	9	182	自分の体の状態と弱点を知り、身の周りにある用具を使って、弱点を克服する体操を学んだり、グランドゴルフ・レクゲームを行ったりして心身の健康増進を図る。
15	紙バンド手芸教室	9	160	古紙から再生される環境に優しい紙バンド(エコクラフトテープ)で、ミニかごやバッグ、小物入れなどを作り、手芸の楽しさを学ぶ。
16	アロマリフレッシュ教室	7	35	植物に由来する自然の香りを生活に取り入れ、心身の健康や美容の増進を図る。
17	こども折り紙教室	4	107	親から子へ、子から孫へと受け継がれてきた日本の伝統工芸折り紙を楽しむ。
18	男の悠遊教室	9	68	男性を対象に日常的に習慣化出来る体操の習得、料理・園芸などの体験、健康等をテーマにした講演を取り入れ、心身の健康増進を図る。
	合計	161	2,601	

(6) 富津公民館（埋立記念館を含む）の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 富津公民館管理運営事業（20,856,285円） ・ 成人式事業（782,118円） ・ 学級・講座関係費（665,375円） ・ 埋立記念館管理運営費（3,988,059円） など 		
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果（成果・課題等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 成人式事業 <p>新成人を祝って、富津公民館を会場とした式典を平成25年1月13日に開催し、新成人の意見発表のほか記念品の贈呈等を行った。</p> <p>今年の新成人該当者は501人で、内398人が式典に出席し出席率は79.4%であった。</p> ・ 学級・講座事業 <p>対象別（婦人・成人・高齢者等）や課題別（教養・歴史文化・工芸・園芸・健康等）の14学級・講座を開設した。今年度は、新たに「パン作り教室」を行い、学級・講座全体の参加のべ人数は2,159人であった。</p> <p>公民館活動には、地域住民の生活課題、地域社会の共通課題など、多様化する市民ニーズに応じた学習の機会を、継続的に提供することが求められているが、人員的に限られた中での対応は厳しい状況にある。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）</p> <p>富津公民館は、建築後28年が経過し、老朽化による設備故障等の発生頻度が年々高まる傾向にあるが、公民館の運営や事業活動に支障をきたすことのないよう、日常的な施設の保守管理に努めるとともに、財政状況を踏まえた長期改修計画等を策定した中で、施設整備を進めたい。</p> <p>成人式では、新成人への記念品として、式典会場での全体集合写真を贈呈し好評を得ていることから、今後も可能な限り継続したい。</p> <p>次代を担う新成人を祝福し激励することは、豊かな地域づくりを推進する上からも大変意義深いことから、式典の内容等について適宜検討を加えつつ、今後も継続して実施すべきものとする。</p> <p>公民館活動は、今後も、事業内容や学習手法等を十分検討するとともに、地域の利用者や各種団体等と連携して、誰もがより参加しやすい環境づくりを進め、地域住民の学習意欲の向上と地域文化の発展に努めたい。</p>		

学級・講座開催状況

平成25年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	高齢者教室	10	317	年齢を重ねても健康で充実した生活を送るため、幅広い知識や教養、健康増進法などについて学ぶ。
2	女性の趣味・教養講座	8	115	女性の教養や趣味を広げるきっかけとなる学習をする。
3	園芸教室	9	126	花や樹木の手入れ、管理方法から、草花の種からの育て方、鉢の寄せ植え、樹木の移植、用土作りなど、園芸技術を学習する。
4	男の料理教室	8	160	手軽に作れる日常の惣菜など、初歩的な調理技術と酒の肴など、男性ならではの実践的な料理づくりを学ぶ。
5	東京湾学講座	13	563	富津岬を中心に東京湾岸の歴史や文化、自然などについて、幅広い知識を学び、また探査会を実施し学習していく。
6	やさしい介護講座	7	41	介護の基礎的な知識と実践についての指導を通し、様々なケースの介護知識の習得と体験を通して障害者等の介護法を学ぶ
7	健康スクール教室	8	121	自分でできる運動を中心に、日常的に体を動かす楽しさを学ぶ。
8	わらべ歌教室	7	103	乳幼児と保護者を対象にして、子育ての中に、わらべ歌遊びを取り入れ、親子のふれあいを深める。
9	韓国語教室	16	341	日本の隣国である韓国の言語と日常会話を学び、韓国の伝統文化についても、あわせて学習する。
10	パソコン教室	2	24	パソコンの初心者を対象に、基本操作と文書作成（ワード）・表計算（エクセル）・インターネット接続等を習得する。
11	大人チャレンジ教室	1	12	日常生活の中では、なかなか体験できない伝統文化・技術などにチャレンジする。
12	エコパッチワーク教室	7	111	エコ、リメイクの意識を高めるため、古着の布を組み合わせて使用し、パッチワークを学ぶ。
13	ウォーキング教室	4	68	熟年層を対象にウォーキング、体操を取り入れ、肥満や運動不足からくる生活習慣病の予防、ストレスの解消を図る。
14	パン作り教室	6	57	無添加の材料でのパン作りを楽しむ。
	合計	106	2,159	

(7)市民会館(峰上公民館を含む)の取り組み	教育委員会の自己評価	B
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民会館管理運営事業 (30,320,751円) ・市民会館学級・講座関係活動事業 (717,570円) ・峰上地区公民館管理運営事業 (1,248,066円) など 		
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理運営 <p>地域市民の文化意識の高揚を図り教養を深めるため、文化事業を実施・提供した。また、交流の場や生活文化の振興・社会福祉の増進に寄与するための活動拠点として管理運営に努めた。</p> <p>主催事業である教室・講座サークル団体等や各種団体が快適に利用できるよう運営を図った。</p> <p>峰上公民館については、地区公民館として、また住民の実生活に即した生涯学習活動の拠点として、施設の充実と適正な運営を図った。</p> ・学級・講座事業 <p>17の主催学級・講座を開設し、市民に楽しく学ぶ機会を提供し、現代社会の流れに沿った内容を取り入れながら人づくりや地域づくりに寄与した。なお、今年度は新たに「初心者向けの3B体操」・「男の家庭科講座」を開設した。全開催回数は121回、参加人数は延べ1,759人であった。</p> ・施設整備事業 <p>東日本大震災以来、防災設備の見直しをし、その中の1つに消防設備修繕として各主要場所に避難誘導灯を新しく付け替えた。避難所としての役割や、日頃利用している地域市民を一層怪我なく安全に避難誘導することが期待できる。</p> 		
<p>③ 今後の取り組みの方向性(改善策等)</p> <p>市民会館については、平成元年7月建設以来25年近くが経過し、市民が気持ちよく安全、安心、便利に利用してもらえるよう老朽化部分の施設改修を継続的に実施していく必要があることや、大きな催し物がある場合の駐車場の確保について検討が必要であることは例年と変わらない。現状に合った予算要求をしていきたい。</p> <p>峰上地区公民館については、昭和38年9月開設の木造2階建て施設であるため、施設整備等に対する保守点検を徹底し、管理運営に支障をきたすことのないようより一層の注意・対応が必要となる。</p>		

学級・講座開催状況

平成25年3月31日現在

No.	講座の名称	開催回数	参加延人員	講座の主旨と内容
1	歴史探訪講座	9	233	地域の歴史を、文化、自然、人物、史跡などから発見、学習する。
2	パソコン教室	3	27	文書や表の作成、インターネットの接続等パソコン操作の初心者向け講習会。
3	こどもダンス教室	12	162	リズム感を養いながら、音楽に合わせて体を動かし、ヒップホップダンスの基礎を学ぶ。
4	煎茶道講座	9	99	玉露、煎茶、紅茶、番茶の点前を通し、作法・所作を学ぶ。
5	折り紙教室	6	47	指先を使うことによる脳の活性化を図ると共に、一つの紙片から作られる芸術を折り紙作りから学ぶ。
6	スローライフ楽塾	9	92	団塊世代を含めた新たなライフスタイルを探求したい人を対象に、インドア、アウトドアを問わず様々な体験を通して学ぶ。
7	健康増進教室	2	63	ハイキングやウォーキングにより、地域探訪をしながら心と体のリフレッシュを図る。
8	バラエティー料理教室	9	115	和洋中華、アイデア料理など幅広い料理作りをし、併せて調理器具の使い方を学ぶ。
9	エコ・スクール	9	87	自然環境・動植物の環境から、ゴミ・リサイクル等の学習や現地視察を行い、幅広く学ぶ。
10	こどもチャレンジ教室	5	85	家庭とは異なる環境で、親子での共同作業や体験を行い、自主性、創造性、社会性を育む。
11	シルバー生きがい学級	9	271	高齢化が進む中、レクリエーションや学習を通し参加者がふれあえる場を作り、仲間づくりをする。
12	パッチワーク教室	5	58	手芸の初歩から学び、創作の工夫・意欲を高めることを学ぶ。
13	男の家庭科講座	6	30	日ごろ何かと家庭とは離れがちな父親やおじいさんが家庭で存在感を発揮するための家庭科を学習する。
14	証券学習講座	6	37	初めて経済や金融を学ぶ人を対象とし、難解な経済、金融の仕組みや用語を解説しながら、お金の流れや自分でお金を守るなど新時代のマネーライフを学ぶ。
15	和菓子教室	10	228	日本古来から伝わる和菓子作りを基礎から学ぶ。
16	草木染め講座	5	53	四季の中で育った草木を使い、染め物の染料とすることを考えた先人の知恵「草木染め」を学ぶ。
17	初心者向けの3B体操	7	72	初心者を対象に健康で過ごすために、体を鍛えて病気にかかりにくくすることを学ぶ。
	合計	121	1,759	

外部評価者（Ⅰ）の評価

B

意見

- ・各種会議が多い中、総合的に見て努力していると評価できます。
- ・石室の見える珍しい西谷古墳の解体は、協議に基づく記録保存の結果とはいえ、非常に残念である。石材のモニュメントとしての保存については、検討しているようであるが「歴史の町」と言いながらの古墳の解体は自己否定につながらないのか？また、飯野陣屋跡も草木が伸びてきており継続的な手段がとればよいが？
- ・学級、講座は予算も少ない中努力しているのは見えるし職員も大変だと思います。しかし、前年度と事業等を比較しても減が2講座、新が5講座だが内容はニーズに応えたとは思えない。また、年度比較しても回数、参加者が固定化されているようなのでサークル化を進め公民館、市民会館としての講座展開を図るようにしたらどうか。見直す時期を過ぎているように思う。
- ・成人式の写真は大変好評であり継続が望まれているが、一つの例として成人式開催の前に集合写真を撮り式典の間にプリント（あるいはデータ化）するのも一つの方法である。創意工夫の中で引き続き思い出のある記念式典にしていだけたらと思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価

B

意見

- ・『第3次基本計画』・『生涯学習推進計画』の施策目標と到達点が示されているのは、評価しやすくよいことである。数値だけで全てのことが判断できるとは思えないが、目標値を高くしていくための情報収集やアンケートの内容検討等に更に努めてほしい。
- ・図書館関係事業は、23年度評価では書庫の確保と移動図書館のステーション見直しが課題となっていたが、その対応はどのようなになったのか、移動図書館の利用冊数減少との関係は？早期に解決すべき課題を明らかにし、改善策を講じてほしい。
- ・遺跡発掘調査等の実施に伴い、調査報告書や過去の調査結果を集大成した「内裏塚古墳群総括報告書」を刊行したことは今後の調査を推進していく上でも評価できる。
- ・多様化している市民ニーズに対応した学級講座が開設されている。特に、男性のための講座は、名称も含め微笑ましく感じる。施設の老朽化が心配ではあるが、計画的な施設整備を行い、市民が生きがいを持って学べる場を提供してほしい。
- ・市民会館の駐車場の確保は、例年とかわらず検討が必要とあるが、できるだけ近い将来に実現してほしい。

3. スポーツ・レクリエーションの振興

『富津市第3次基本計画』・『富津市生涯学習推進計画』の施策目標と到達点

指標名	平成21年度	平成27年度 (目標値)	平成24年度 (到達点)
市民等アンケート 「スポーツ・レクリエーションの振興」 の満足度	37.2%	40.0%	—
スポーツ関連の行事参加者数	16,000人	17,700人	16,242人
総合型地域スポーツクラブの数	1か所 <平成22年度>	2か所	1か所

○富津市ふれあいスポーツフェスタ2012開会式より



(8) 体育振興課の取り組み	教育委員会の自己評価
B	
<p>① 主な事業と決算見込額</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育振興事業 (6,082,910 円) ・ふれあいスポーツフェスタ事業 (1,525,116 円) ・市体育施設管理運営事業 (61,347,201 円) ・スポーツレクリエーション推進事業 (368,242 円) など 	
<p>② 24年度の取り組みの概要と効果(成果・課題等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会体育振興事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民がスポーツに親しみ、豊かな生活が営まれるように各種スポーツイベント等を実施。また、スポーツ推進委員及びスポーツ・レクリエーション推進員と連携して、誰でも気軽に参加できるニュースポーツの普及に努めた。* 富津市長杯争奪少年野球大会 150 人 富津市教育長杯争奪少年サッカー大会 140 人 第30回記念F T S杯争奪少年剣道大会 466 人 第19回F T S杯争奪少年柔道大会 134 人 「県民の日」記念第29回グラウンドゴルフ大会 102 人 「県民の日」記念第29回バドミントン大会 289 人 第31回F T S杯争奪少年野球大会 150 人 第18回健康ウォークラリー大会 85 人 君津地区スポーツレクリエーション祭歩け歩け大会 328 人 第31回F T S杯争奪インディアカ大会 22 人 第21回F T S杯争奪ソフトバレーボール大会 46 人 第18回F T S杯争奪グラウンドゴルフ大会 73 人 君津地区スポーツレクリエーション祭(インディアカ・ソフトバレー・グラウンドゴルフ) 58 人 富津市教育長杯争奪少年野球新人大会 150 人 ニュースポーツ教室 148 人(吉野小・富津小・金谷小) * 第37回ママさんバレーボール大会 168 人 第31回市民ハイキング(雨天中止のため、エスキーテニス研修会実施 25 人) * 第42回元旦歩こう大会 381 人 第42回新春バドミントン大会 44 人 第25回新春グラウンドゴルフ大会 121 人 第1回ふれあいドッジビー大会 129 人(天羽東中) * スポーツ教室(毎週土曜日) 4,505 人 第2回富津市バスケットボールフェスタ 1,186 人 ・ふれあいスポーツフェスタ事業 <ul style="list-style-type: none"> 市民の手づくりによる健康づくり、体力づくりを目的に多くの市民がスポーツに親しめるよう実施。また、大会終了後も、実行委員会を開催し反省点等を来年に活かせるように努めた。参加者 2,700 人 	

・ 体育施設管理運営事業

財団法人富津市施設利用振興公社を指定管理者として管理運営を実施し市民サービスの向上を図った。11月に総合社会体育館主体育館の天井部材落下が判明し2月まで利用をお断りして緊急の改善工事を行った。

総合社会体育館 主体育館 315件 39,415人 小体育館 551件 8,085人
トレーニングルーム等 30件 666人

富津運動広場 88件 1,631人

新富運動広場 149件 13,401人

浅間山運動公園 テニス 601件 3,056人 野球 107件 4,451人

・ 小中学校体育施設開放事業

76団体 6,043日 130,492人（延数）

・ 第35回千葉県民マラソン大会

市民等の心身の健全な発達と、スポーツ振興、富津市の名産品などの紹介や販売を行うことによる観光振興に寄与することを目的として千葉日報社と協力して千葉県民マラソン大会を実施。選手受付の混雑解消や記録証発行を迅速にするため、ゼッケン等の事前送付やパソコンを増やすなどの対応を行い開催することができた。

エントリー4,667人 完走数3,949人

③ 今後の取り組みの方向性（改善策等）

・ 社会体育振興事業

スポーツ推進委員やスポーツ・レクリエーション推進員と連携を図り、新しい競技種目を取り入れるなど、多くの方がスポーツに親しめるよう検討する。

25年度は、ニュースポーツ普及研修会の種目として「ペタンク」を実施予定。

・ ふれあいスポーツフェスタ事業

大会終了後に開催している実行委員会での反省点を次回に活かし、より充実した大会を開催できるよう、25年度の実行委員会を早期に立ち上げ準備を進めていく。

・ 体育施設管理運営事業

施設の老朽化に伴い各施設ともに補修等が必要となっていることから、計画的に施設の補修を進めていく必要がある。

また、25年度に浅間山運動公園のテニスコート1面をフットサルも使用できるコートに整備する。

・ 千葉県民マラソン大会

25年度第36回大会からは、ハーフマラソン・10kmのコースを日本陸上競技連盟の公認コースへの認定申請を行う。

外部評価者（Ⅰ）の評価

B

意見

- ・定形的に進めているような感じがあるのは残念に感じますが、職員の努力は評価できます。
- ・スポーツ健康宣言都市について、その後の検討はしているのか。せっかく素晴らしい施設をもっているのだから高らかに宣言したらいかがか。
- ・ふれあいスポーツフェスタは、毎年同じような競技を同じ参加者でやっているように感じてしまう。大きな事業は、早い段階から準備していかないと新しいことや、反省点を生かした取り組みはできないのもっと参加者が増えるような積極的な取り組みをお願いしたい。また「反省点を来年に生かせるように努めた。」とあるが何をどのようにするのか（したのか？）具体的な点検評価にすべきである。
- ・千葉県民マラソンは、定着してきており好評ですので、ぜひフルマラソンも公認に向けて取り組んでほしいと思います。

外部評価者（Ⅱ）の評価

B

意見

- ・社会教育振興事業として、ニュースポーツも取り入れ市民に親しまれるスポーツイベントの実施に努めている。参加者の増減だけで良し悪しを判断できないが、前年度より人数の大幅増や大幅減のイベントがあるので、成果と課題をしっかりと整理して次年度につなげてほしい。
- ・ふれあいスポーツフェスタ事業は、市民の手づくりの健康、体力づくりを目的とした事業なので、今後も多くの人を楽しんで参加できるように、実行委員会の早期の立ち上げと反省点を活かした取り組みを期待している。
- ・総合社会体育館の天井部材落下により、緊急の改善工事を行ったことで市民が安心して利用できる体育施設に蘇ったことは評価できる。しかし、一つ間違えれば大惨事になる可能性もあるので、他の施設の点検整備を確実にお願いしたい。
- ・県民マラソンは、前年度過去最多の参加人数だったため、当日は混乱を来したが、今年度はその反省を活かし、事前と当日の迅速な対応を行い大きな混乱もなく実施できたことは喜ばしいことである。今後も、参加人数の増減にかかわらず対応できるマニュアル作りをして大会がスムーズに実施できることを願っている。